

＜ もくじ ＞	
1. 巻頭言：「ポスト・ノーマル・サイエンス」に向き合う	1
2. 第7回研究会合同シンポジウムの報告「人生の第三期に広がる世界 ～新しいキャリアへの挑戦～」	2
3. 研究会からのお知らせ	3
4. 研究会からの概要報告	4
5. 事務局からのお願い	7

1. 巻頭言：「ポスト・ノーマル・サイエンス」に向き合う

大江健三郎、坂本龍一という知の巨人を相次いで失ったいま、その死をどのように受け止めるべきかを考える一つの方法として、われわれの科学への向き合い方に注目してみたいと思います。科学者ではない二人が、人間の原子力利用についての強い発言力と影響力を持ちうる理由の一端を、今日の科学の状況から考えてみます。

T.クーンという現代の「ノーマル・サイエンス」(『科学革命の構造』みすず書房、1962)を問題解決に適用して社会の発展に貢献できる科学の応用領域は、安全性への配慮が比較的行き届いた医学や建築学、乗り物、工場生産機械のようなごく一部に限定されるようになってしまいました。原発事故、環境問題、生命倫理、新型コロナ感染等の問題は、科学者の判断のみに頼って問題解決のための決定を下すことの危険性を広く知らしめました。2006年、イギリスの科学哲学者J.ラベッツは、第1に、現代の科学は予想できない複雑かつ有害な影響をもたらしかねないため、その客観性、確実性は大きく揺らいでいること、第2に、急を要する社会問題の解決に科学や技術を適用する際に、そこから多大な利益を得る人がいる一方、被害の形態や影響の複雑さにより多様な利害関係者間の論争が生じる傾向が高まるという2つの尺度から現代の科学を定義し、両方の度合いが高い状況に置かれた科学を「ポスト・ノーマル・サイエンス」と呼んでいます(J.ラベッツ『ラベッツ博士の科学論』こぶし書房、2010)。

現代の原発再稼働や環境問題の場合、端的には経済成長を優先する立場と生命や生活の安全を脅かされる立場の論争がつねに付きまとい、その論争は経済成長を優先し大きな権限と既得権を持つ国や大企業に有利に進められることが多いのが現実です。われわれはそれに気づきながらも、科学者の専門的知識だけに依存して重要な判断を為政者に委ねる伝統的な思考方法から抜けだせないでいます。現代の「ポスト・ノーマル・サイエンス」の特質を認識するとき、われわれは利害関係からの中立を装い、科学者の見解を鵜呑みにするだけでは済まないでしょう。むしろ自らの生活の安全性がいかに脅かされているのかわれわれ自らが深い関心を寄せ、生活者視点からの経験と知識の組織化をはかることが必要でしょう。また、難解な科学用語をわかりやすい言葉で表現し議論する工夫を重ね、国や企業の問題解決を阻むような不誠実な隠蔽を暴く告発者やメディアの力を味方につけ、安全と経済のバランスを図りながら誠実に問題の解決に取り組むあらゆる立場の人の発言を尊重し、民主主義的な方法で論点を深め、問題解決のための科学や技術の採用決定に影響を与えるようなフォーラムを生み出していくことの重要性を再認識せざるを得ません。

大江、坂本の両氏は、科学者ではない立場からそのような動きを創り出そうとする傑出したリーダーであったと言えるように思います。この二人の死をわれわれシニア社会学会のなしうることや可能性について議論するきっかけにすることはできないでしょうか。



2. 第7回研究会合同シンポジウムの報告

「人生の第三期に広がる世界 ～新しいキャリアへの挑戦～」

(1) 開催日時

- ・日時：2023年3月25日（土） 14：00～16：00
- ・開催方法：オンライン（Zoom）、参加費：1,000円
（登壇者、関係者が、当学会事務局があるちよだプラットフォームスクウェアに集合し配信）

(2) テーマ

人生の第三期に広がる世界 ～新しいキャリアへの挑戦～「超高齢社会の中で新しいライフシフトに挑戦するために必要なこととは」をテーマとしました。2023年度の立ち上げを目指している弊協会の8番目となる新研究会「リエゾンシニアの社会参加研究会（仮称）」の問題認識をベースにしています。これをテーマに基調講演、パネルディスカッションを行いました。



治田 友香
関内イノベーション
イニシアティブ 株式会社

池口 武志
一般社団法人
定年後研究所
当学会 会員

小野 晶子
独立行政法人
労働政策研究・研修機構

本田 恭助
当学会
運営委員

「人間五十年」とか「人生七十年」といわれたのは昔のこと。今や「人生100年」も稀ではなくなりました。かつて定年後は余生とよばれたものですが、今日では教育期や就業期の後の人生がしだいに長くなってきています。「余りの生」というには長すぎる人生の第三期には、これまでの生き方にとらわれることなく、新しい道に進むことができます。学ぶ、働く、社会に貢献する等など、あなたも新しい可能性に挑戦してみませんか？という提起をしました。

(3) 基調講演：自律する個人が生き活かし合う社会を創る -ソーシャルビジネスの現場から-

- ・治田友香 関内イノベーションイニシアティブ 株式会社 代表取締役社長
これまでの経歴など自己紹介に続いて、「「自律する個人が生き、活かし合う社会」を目指す」をビジョンにした関内イノベーションイニシアティブ株式会社の立ち上げと現状の活動や課題について共有いただきました。豊かな人生を送る術を知っている人たちが、地域経済・地域課題の解決・新たな価値創出の担い手に！を目指し、「地域の人材育成と繋ぐ」をより発展させるために財団設立の準備をしているとのことでした。

(4) パネルディスカッション：

- ・モデレーター 袖井孝子 当学会会長 ・コメンテーター 治田友香
- ・総合司会 長田攻一 当学会事務局長
- ・パネル 池口武志 一般社団法人定年後研究所 理事・所長、当学会会員
「新しいキャリアへの挑戦 -学びと実践の実体験から-」をテーマに定年後研究所での調査・研究、社会への発信、キャリア研修プログラム、また、ご自身の新しいキャリア形成として老年学修士論文のご紹介をいただき、定年後前後の特に男性が抱える意識と課題について共有いただき、個人の成長と企業(社会)の発展を繋ぐのが「キャリア自律」ではないか？とのご提起がありました。
- ・パネル 小野晶子 独立行政法人労働政策研究・研修機構 多様な人材部門 副統括研究員
生涯キャリアと社会貢献活動 -パラレルキャリアの可能性-をテーマに、これまで研究・発表されている中から、社会貢献活動を中心に「定年後の不安とパラレルキャリア」「どんな人がボランティアや社会貢献活動をしているのか」「どんな人がボランティアや社会貢献活動をしてい

るのか」について調査データとともに共有いただき、将来の社会参加のためには事前の自発的なボランティア活動が重要、合わせて企業自身の社会参加を支援する人事制度の促進について課題が提示されました。

・パネル 本田恭助 当協会運営委員

定年後再雇用を機に企業から全くの異分野であるNPOへ出向したが、企業とNPOとの文化・価値観の違い、仕事の仕方や議論されるテーマ・視点のあまりの違いに困惑、その経験と自分を活かすための気づきについて共有し、異分野への助走期間確保の重要性を提示されました。

・ディスカッション

「企業出身者が地域に乗り移るのは難しい？」

きょうの事例紹介を聞いていて感じたのは目線が「自分自身が中心」となっていて、地域活動では「地域目線」ではないと受け入れられないと思う。そうしたギャップを感じました。企業の制度や出身者個人に対して、研修などの活動が必要だと感じ、「地域」側も思いを伝えるようにお互いが変わって行かなければいけない。市民は本来、自由のはず、企業の枠、市民活動を行っている団体の枠を超えて、市民として自発的に行動する「自由な生き方」であると思います。（治田）

「定年後の居場所をどうやって見つける？」

定年は1つの踊り場です。企業にどっぷり浸かってきた人がそれぞれの価値観に沿って「キャリア・レインボー（7つの立場）」の中から新たなキャリアを1つだけでも獲得するために早いうちに積極的にさまざまな機会に首を突っ込んでみるとよいと思います。これまで培ってきたことが思わぬところで役に立つようです。（池口）

「地域社会への参加をより実現するためには？」

よい事例としてのロールモデルの提供が必要だし、行政の応援を得られるような提案、50代以上のシニアだけでなく若い世代の参加、世代間の繋がり・交流ができるようになることよい。しかし最近では社会参加への理解・実践は変わってきています。企業と市民活動のリレーションが未だ弱いのが日本の特徴、しかし、少しずつだが個人だけでなく、価値観が変わりつつあり、若い世代の社会の役に立ちたいという人たちが増えてきており、世代間でつながることで、活動資金の確保を含めて持続可能な参加の仕方になってきています。（治田・小野）

「まとめ」

次の世代に期待できそう。企業と地域社会および企業とNPOの間の壁を崩していくという潮流が出てきており、そうした期待できそうなことが見えてきています。（袖井）

終了後のアンケートから、いくつかのご意見をご紹介します。

- * 新たなステップに踏み出す時点で、個々人が人生の棚卸資する必要があると思います。（女性、70歳代）
- * ソーシャルビジネスの現場を垣間見せていただき大変勉強になりました。（女性、60歳代）
- * これからの社会の変化の方向が見えてきたように思います。（男性、70歳代）
- * “管理され、与えられることに慣れきってしまっている日本人に“自律”は有り得ないと思います。（男性、70歳代）
- * 「当学会がプロボノになればいい」と思いました。治田さんの団体の事業収益はどうなんでしょう？個人的には「ソーシャル」を取った「スモールビジネス」に関心が向きます。（男性、80歳代）

（本田恭助 記）

3. 研究会からのお知らせ

（1）第86回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ（再）

1) 日 時：2023年4月20日（木） 15:00~18:00

2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室

3) テーマ：「提言書素案の提出と意見交換」

4) 発表者：安田 和紘

5) 参加費：300円

※ お問い合わせは、島村 (ken-sima1941@jcom.home.ne.jp) までお願い致します。

(2) 第32回「YNS やまぶき任意後見サポート会」開催のお知らせ

1) 日 時：2023年4月22日(土) 18:30:~20:30

2) 場 所：品川区東大井 5-18-1 きゅりあん 第二グループ活動室

3) 発表者：鈴木 眞澄及びその他 YNS やまぶき任意後見サポート会

4) テーマ：認知症とともに生きる

びしょうざ

劇団 「B笑座」第19回。

「認知症とともに生きる」です。

認知症らしさを体験することで新たな発見が生まれます。

劇団員募集しています。Zoomの参加もできます

*お問い合わせは、鈴木 眞澄 (mme_masumi@yahoo.co.jp) 迄お願い致します。

(3) 第150回「社会保障」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2023年4月26日(水) 18:00~20:00

2) 報告者：上原桃美(ダイヤ高齢社会研究財団 博士研究員)

3) テーマ：シルバー人材センターでの生きがい就業

4) Zoomでいたしますので、参加を希望される方は、阿部と小島にご連絡ください。

[阿部富士子 fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp](mailto:fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp) [小島みさお kojima.misao01@gmail.com](mailto:kojima.misao01@gmail.com)

※ ご質問がありましたら、阿部(旧姓佐藤)まで

090-4436-6853

(4) 第43回「ライフプロデュース」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2023年5月9日(火) 17:30~19:30

2) 場 所：Zoom開催

3) テーマ：研究会の今後についての意見交換

※ ご連絡ご質問は、氏名 中村昌子 (nakamurayoshiko6@gmail.com) までお願い致します。

41 回報告は、学会HP左手「ライフプロデュース」研究会ブログをクリックしてご覧ください。

(5) 第41回「社会情報」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2023年5月17日(水) 15:00~17:00

2) 場 所：Zoom開催

3) 概 要：俱進会助成事業 報告書確認

※ 参加ご希望の場合は、前日までに森 moriyasu@ied.co.jp までご連絡ください。

4月の研究会は休会します。

4. 研究会からの概要報告

(1) 第40回「社会情報」研究会の報告

1) 日 時：2023年3月15日(木) 15:00~17:00

2) 場 所：ちよだプラットフォームスクウェアB1 プロジェクトR011

3) テーマ：俱進会調査研究 報告書とりまとめに向けて、報告会開催について

① 報告書に向けて

報告書まとめの経過を八巻さんから報告

あざみ野・市川での報告会開催(参加者は、それぞれの地域でのインタビュー担当者)

② 報告書に示す支援策について

1) 安田さん提示策

- 段階に応じたマスター方法

第1段階：触る習慣を付ける

第2段階：5大機能を使いこなす

第3段階：4大アプリをマスターしよう

- 今後の施策

「スマホの機能を無駄にいませんか」キャンペーン、スマホ教室、「70歳の壁」「80歳の壁」「孤独を恐れない」等をテーマにした書籍との連携、スマホ掛かり付け医の促進、認知症対策としてのスマホ活用、「欲と道連れ」作戦

2) フリーディスカッション

安田さんの案についてフリーディスカッション

3) 富田さん提示策（先週の資料に策を加えたものを配布）

- 今後のアフターコロナ期にシニアがニューノーマルICT ライフを過ごすためのキーワードは、以前示した7つのうち「交・楽・守」の3つとなるのではないか。
- 「交・楽・守」それぞれに、今回の調査で得られた具体的な支援策を結びつけて提示。（森 記）

(2) 第149回 「社会保障」研究会報告要旨

1) 日 時：2023年3月22日（水） 18:00～20:30

2) 報告者：井上治代（東洋大学現代社会総合研究所 客員研究員）

3) テーマ：単身/無縁社会における「死後福祉」「葬送の社会化」～認定NPO 法人エンディングセンターの試みを事例として～

4) 参加者：21名

1990年代以降、父から息子へと継承される直系家族制の「家」制度が消滅して脱「家」現象が生じ、夫婦一代限りの夫婦制家族が定着した。さらに2010年代以降は、単身世帯が増加し、脱「家族」社会である無縁社会が出現した。こうした家族の変化は、日本の墓のあり方にも大きな変化をもたらした。日本の墓の変化をまとめると次のようになる。①男子単系で家族単位→夫婦双系の両家墓→個人単位 ②永代使用→期限付きの墓地 ③継承者を必要とする→継承者を必要としない ④墓石の建立（墓石に家名→好きな言葉）→散骨、樹木葬（脱墓石化、自然回帰）。いいかえれば、墓について選択肢が多様化し、個人の選択の幅が広がったといえる。

2040年には、男性の4割が90歳まで生き、女性の2割が100歳まで生きると推計されている。火葬場が不足し、葬儀を取り仕切る親族のいない人が増加する。伝統的な地域社会が崩壊し、第三者の手に葬儀や埋葬を委ねなければならなくなる。「遺骨は歩いてお墓に入れない！」ので、安心して死を迎えられることを目的に認定NPO 法人エンディングセンターを創設した。活動の内容には、①桜葬墓地（合同祭祀） ②墓を基礎とした「結縁」（「墓友」活動、終活フォーラム） ③エンディングサポート（ぬくもりのある最期）があげられる。墓友の活動を通して、もう一つの家族を実現し、一緒に食事をし、お喋りをして、あの世で会いましょうという気分になる。「死後の地域社会」とでもいうべきだろうか。向こうで会えることが楽しみになり、より安心して生きることができる。

参加者からは、具体的に樹木葬や散骨をする方法についての質問や自身が体験した最近の葬儀のあり方への疑問などが語られた。近年、終末期の医療・ケアについてACP(Advance Care Planning)の必要性が説かれているが、死後についても家族、友人、関係者などと話し合っていくことの必要性を痛感させられた。（袖井孝子 記）

(3) 第85回「シニア社会のリテラシー」研究会開催の報告

1) 日 時：2023年3月23日（木） 15:00～18:00

2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室

3) テーマ：意見交換＜その2＞－『「シニア社会の課題とシニアからの提言」について、深掘り討議する～時代の変化を踏まえて～』

意見交換は、安田コーディネーターの司会で、資料を作成された方が発表する形で進められた。佐藤 敬さんは、「<ハンドブック作成の基本方針>~ハンドブックを『老若相互理解』促進のツールに」と題する資料に基づき、シニアはフォロワーとメンターたれと強調された。

碓 正義さんは、「日本社会はどこへ向かうのか<成熟か衰退か>」とのタイトルで、シニア社会を成熟社会と捉える時の現状認識についてご自身が日頃考えていることを語られた。島村健次郎さんは、「メッセージ『日本の元気は、元気なシニアたちから~いまこそシニアカ・老人力を発揮しよう』」とのテーマで、先ずもってシニアは元気であり、そしてしかる後出番があると述べた。メールでコメントを寄せられた大下 勝巳さんは、シニア自身がコミュニティの一員として生きがいと健康づくりを目指しつつ、若い世代への負担軽減を図る、そういうシニアライフを！と思うと語られた。安田 和紘さんは、「続 シニアからの提言改訂版に向けて~社会課題に対して濱口研からの提言~」と題する資料で、現状から未来への提言として、焦点を人口構造の変化とデジタル・イノベーションの2点に絞って、具体的課題を列記された。

濱口座長は、「成熟社会と多様性」について、社会的発展の指標として人口の様態に注目すると、多様性の社会的許容は成熟社会の必要要件であることが分かること。しかも多様性は豊かな相互依存性を生み出し、相互依存性を必要としているので、多様化が進む様な社会条件下では有機的な依存関係がなお一層発達すると考えられること。「多様性と依存性」については、多様性は自由の、依存性は寛容の別称であること。発達した市場と脱市場の経済関係が展開している成熟社会を想定していること。また、「循環物語と成長物語」についても触れられ、小説には2形式があること。成長物語の中に循環物語が組み込まれていることもあるし、その逆もあるが、基本的には2つのタイプを想定することにより小説の意図が分かる。芥川賞は循環物語的な小説で、直木賞は成長物語的な小説であると、大雑把に分類できる。とコメントされた。

(島村健次郎 記)

(4) 第31回「YNS やまぶき任意後見サポート会」の報告

- 1) 日 時：2023年3月25日(土) 18:30~20:30
- 2) 場 所：品川区東大井 5-18-1 きゅりあん 第二グループ活動室
- 3) 発表者：鈴木 眞澄及び会員(YNS やまぶき任意後見サポート会)
- 4) テーマ：認知症とともに生きる

びしょうざ

劇団 「B笑座」第18回。

「人形劇」も混ぜて、楽しく寸劇を行いました。Zoom 参加者も増えました。今後に活かしたいと思います。

(5) 第42回「ライフプロデュース」研究会の報告

- 1) 日 時：2023年4月4日(火) 17:30~19:30 Zoom 開催
- 2) 報告者：長谷川洋(ひろし)さん
(NPO 法人 埼玉県健康管理士会 「ライフプロデュース」研究会メンバー)
- 3) タイトル：「正しいサプリメントの活用法」について

1. 序論

最初に、健康食品・サプリメントについての分類、医薬品との違い、及び海外、特にアメリカにおけるサプリメントの状況や、どのような問題点があるか説明させて頂きました。健康食品・サプリメントの市場はコロナ禍や健康志向が追い風となって、1兆3,000億円を超えていると言われています。業界の氾濫する情報に惑わされない活用法について、体験や意見を共有しました。

2. 討論

参加者6名の内、2名はサプリメントを必要としていないとの回答でした。理由は生活習慣病の心配がなく、必要な栄養素は食生活を工夫して摂取されていました。他の4名は、何らかの症状に対して予防の為にサプリメントを賢く選択して利用されていました。サプリメントを利用する、しないの判断は、メディアの宣伝に迷わされることがなく、各自の判断ですべきであり、健康

の基本が栄養、運動、及び睡眠を含めた休養が大切です。特に栄養については、毎日の食事で摂取して、効果が曖昧なサプリメントを必要としないことが理想であるという意見で纏まりました。

3. 本論

①サプリメント業界の現状

団塊の世代が後期高齢者になる「2025年問題」では、医療費は54兆円に、介護費は20兆円に膨らむとされ、財源確保が大きな問題となっています。アメリカでは日本の様な国民皆保険制度がないために、サプリメントを利用することで、病気の予防、健康の増進を図っています。超高齢社会日本でもサプリメントに予防医学を期待することで、少しでも医療費の低減を図る為に、2015年からスタートした「機能性表示食品」の制度では、5,000品目以上が受理され、利用者が増大しています。

②薬の飲み合わせ、食品との食べ合わせ

サプリメントにハーブ系を使用したものが増えたこともあり、弊害が多く報告されています。また、一度に多くのサプリメントを利用することはリスクとなるので、医者などに相談することも必要です。

③サプリメントの機能性や目的

大きくは3つに分類され、ベース・ヘルス・オブショナルがあります。それぞれ栄養欠損補充・健康維持増進・改善が目的で用いられます。大切なビタミンやミネラルは毎日必要とするベースサプリメントに入ります。自身が使用しているサプリメントのは、松樹皮エキスやブルーベリーエキスが入ったもので、目の改善に有効。アスタキサンチンは抗老化対策や目にも良く時々利用。その他に疲労回復用にマルチビタミン剤を服用。今後、認知症を遅らせるイチョウ葉成分のサプリメントを検討中。

4. 最後に

サプリメントが不要なことが理想ですが、現代の多忙な人たちにとっては簡単に摂取できる栄養素をサプリメントに頼ることも必要なので、これからも業界は伸びていくと考えます。しかし、基本は食事からであり、子どもたちに対しては食育も大事です。また、玄米や黒ニンニクの効果、完全食品である赤ちゃん用に作られた粉ミルクを活用するのも生活の知恵でしょう。

(長谷川 洋 記)

5. 事務局からのお知らせとお願い

<会員情報変更時のご連絡のお願い>

事務所移転後は、各種ご連絡をeメールや郵送で行うことが多くなっております。会員情報（氏名・住所・メールアドレス等）に変更が生じた場合は、速やかにご連絡くださいますようお願いいたします。なお、電話による連絡はご遠慮いただいております。シニア社会学会事務局あて連絡は、eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp 又は郵送いずれかの方法にてお知らせください。

<2023年5月 JAAS News の発行日>

次回 JAAS News 第285号の発行日は、2023年5月17日（水）です。原稿をお寄せ下さる方は、5月10日（水）までに、学会宛のeメール添付にてお願いいたします。

シニア社会学会 事務局一同

一般社団法人 シニア社会学会・事務局
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21
ちよだプラットフォームスクウェア1037
eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：<http://www.jaas.jp/>